

【研究テーマ】

運転者属性に応じた交通安全情報の提供に向けた交通事故危険地点の抽出

研究者：名古屋大学 未来材料・システム研究所 山本 俊行 教授

研究分野：自動車保有・利用：将来モビリティ，カーシェアリング

アクティビティ分析：個人の時間利用，電力利用

交通安全：事故統計データ解析

ITS：プローブカーシステム

EST：環境的に持続可能な交通



【内容】

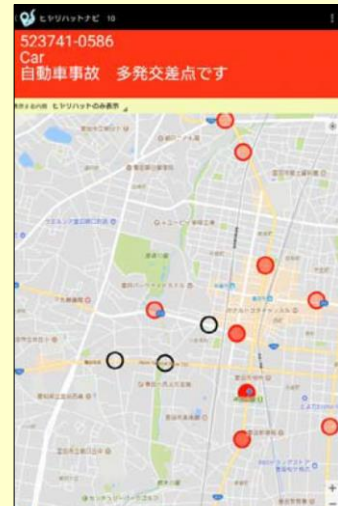
- ・豊田市で観測された交通事故原票データを用いて、運転者属性や車両属性、天候等の状況、道路幅員や車線数、交差点形状などの道路構造、交通量の関係性について統計的に分析。
- ・道路構造や交通量が交通事故に及ぼす影響について把握。
- ・運転者属性や車両属性毎に注意喚起が可能な交通事故注意喚起アプリケーションを開発。

【アプリケーション】

- ・名古屋大学のプロジェクトにて開発されたスマートフォン・タブレット向けアプリ「Safety Navi」を活用。
- ・アプリのユーザー情報（個人属性（性別・年代）、車両属性（自動車、二輪、自転車、歩行者）の分類）を設定し、交差点範囲（半径70mと定義）への進入時に、音声及びメッセージ表示にて注意喚起。



アプリケーションによる注意喚起の場所とメッセージの例



注意喚起表示の例  
(自動車事故多発交差点接近時)

【本研究の主な成果・課題等】

- ・道路規模が小さい県道や細街路でも事故が多く発生している。また、交通量が多い交差点においては、高齢者よりも若者の交通事故が多くなる傾向にある。
- ・交差点においては、交差点の形状、信号機の有無や灯火タイミングなどの情報が交通事故に何らかの影響を与えている可能性もある。
- ・交差点の間隔が短い場所などでは、注意喚起のタイミングを逃すこともあったので、適切なタイミングを調整する必要がある。
- ・今回の研究で得られた成果等を踏まえ、提供を受けた名古屋市内の交通事故データも活用しながら、研究の精度を高めていきたい。